

令和4年度 第1回静岡市自然の家運営協議会 議事録

1 日 時 令和4年7月27日(水) 10時45分～12時00分

2 場 所 静岡市南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家 集会室

3 出席者

【委員】

加藤委員、中山委員、遠藤委員、宮原委員、八代委員、脇坂委員、櫻井委員、服部委員、久保田委員(欠席者:森山委員、喜瀬川委員、堀委員、森主委員、光後委員、菅沼委員)

【事務局】

〈教育総務課〉

加藤課長、杉山調整係長、佐藤主査、増田主任主事

〈南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家〉

齊藤所長、岩科主幹兼次長、中曽根指導主事、木下指導主事、鈴木主事

4 傍聴者 0名

5 委嘱状・任命書の交付

役職内で交代した出席委員に一人ずつ加藤課長より手渡す。欠席者へは後日郵送。

6 議事

(1) 報告事項 ※ 清水和田島自然の家は一時休館中のため、井川自然の家のみ報告。

① 運営方針

② 令和3年度事業報告

③ 令和3年度第2回運営協議会提言後の取組について

④ 令和4年度事業計画

(2) 協議事項 「with コロナ時代における自然の家の運営の在り方」

7 会議内容

(1) 報告事項

①②③④については、事前に資料を配布してあるので、即質疑応答に入る。

特に質問及び意見は無し。

(2) 協議事項 「with コロナ時代における自然の家の運営の在り方」

脇坂委員	子ども達はキャンプや自然体験を楽しみにしているので、井川自然の家でも野外活動は継続して行って欲しい。
八代委員	ガールスカウトでは、今後キャンプを実施する時に抗原キットを送るか検討している。野外活動は友達ができ、成長につながるものなので、感染症対策を行いながら続けて欲しい。
中山委員	井川自然の家において、過去に新型コロナウイルス感染症になったというデータはあるのか。
岩科次長	自然の家では利用 2 週間前から検温を依頼し、健康観察カードの提出を義務付けている。利用後に発熱があったということは一度も聞いていない。
中山委員	自然の家の運営の可否については、教育委員会から示すものではないか。
加藤課長	市として基本的な感染症対策が示されており、制限を緩和していくことを考えている。しかし、制限と緩和には波があるので、利用者のニーズに応えとともに、感染させない対応をしていく必要がある。
宮原委員	教育委員会として、小学生へのワクチン接種は行うようにしているのか。
加藤課長	本人や保護者の考えがあるので、教育委員会としては、児童生徒にワクチン接種を勧めることはできず、強制もしていない。
宮原委員	幼稚園児の感染も増えている。施設を使用する人たちにワクチン接種を義務付けていくのかどうか。
加藤課長	ワクチン接種を利用条件にはできない。
久保田委員	期間や時間、学級や家族ごとに活動を区切って行えば、密を避けながら活動が出来るのではないか。例えば、活動の順番を入れ替えたり、ローテーションをしたりすることで密も避けられるし、一斉には無理ではあるが、全員同じ活動ができる。コロナ禍が終わっても、この活動方法は続けることができる。
宮原委員	主催事業は、募集数に対して 300%以上の応募率がある。1 回で終わっている事業について、日を変えて 2 回行くと良いのではないか。その方が多い応募率に応えることができるのではないか。

加藤課長	今後、活動内容や方法を工夫しながら、主催事業の募集数を増やしていくことを検討していきたい。
櫻井委員	<p>自然体験を行わせたいので、井川自然の家の利用には意義を感じる。利用する子ども達自身もしっかりコロナ対策をしているため、安全な活動が出来ている。</p> <p>保護者には、発熱や体調不良があったら参加させないという依頼をしたり、健康チェックをしたりすることで、自然体験が安全な活動につながっている。今まで利用した学校の様子を他の学校などに知らせてみるのも良いのではないか。</p>
遠藤委員	<p>複数の学校や団体が利用するとき、施設内の動線を分けることも密を避ける方法の一つである。自然体験の教育効果を上げるには、混まずに気持ちよく体験させることも大切である。また、主催事業などで当選した保護者は「行かせなきゃ」という思いが強くなる。キャンセルしやすい体制づくりも大切である。</p>
服部委員	<p>自然体験が価値ある活動であることは、十分承知である。コロナ対策をはじめ、ゆとりあるスペースで活動をしたり、活動プログラムの紹介をしたりと安心が感じられるように、よりアピールをすると良いのではないか。</p> <p>また静岡市のHP上で宣伝するには無理があるので、独自のHP作成ができると良い。</p>
加藤委員	朝霧野外活動センターと焼津青少年の家の対策には、どのようなものがあるか。
齊藤所長	<p>県内のほとんどの施設において、利用できる定員は半分または7割にしている。主催事業や食堂でも人数制限をしている。しかし、朝霧野外活動センターでは、利用人数もバス乗車人数も制限をしていない。</p>
中山委員	<p>自然体験活動の大半は、昼間の活動である。感染の危険度が高い活動を工夫し、井川自然の家で行っている対策をアナウンスするとよいのでは。</p>
服部委員	<p>自然の家で活動を行うにあたり、新型コロナ対策が心配だったら個別に相談すればよい。</p>
加藤課長	<p>自然体験活動そのものは、大変ニーズが高く、応募率も高い。今後は、部分的に密になる活動の内容を工夫していくとともに、活動をローテーションしていく案も参考になった。安全対策は今後も継続していき、さらに安全性のPRをしていく。</p>

令和 4 年 8 月 29 日 静岡市自然の家運営協議会

議事録署名人

服部 巨顕